

芸術振

もくじ

芸術文化の振興	1
第29回県芸術祭アルバム	2
県芸術祭賞等受賞者一覧	3
県芸術祭に参加して	4
海外研修報告	5
芸術30周年をふりかえって	6
平成10年度の国民文化祭に向けて	7
事務局だより	8



大分県芸術文化振興会議

■発行人：仲町謙吉 ■編集人：末廣利人

(題字：堤鏡山)

№. 90

平成5.12



芸術文化の振興

大分市長 木下 敬之助

平素より県芸術振興会議に参加される各団体の皆様におかれましては、県芸術祭等での創作活動をはじめ地域の芸術・文化活動を促進し、芸術文化の向上に尽力されておられることに深く敬意を表します。

1993年は、「文化庁芸術祭大分公演」をはじめ「日本ポルトガル友好450周年記念事業」、「西瀬戸経済圏文化団体交流推進事業」など文化事業・イベントが盛り沢山に実施されました。

大分市といたしましても、文化庁芸術祭協賛として劇団仲間による「森は生きている」を上演いたしたほか、大分市発足30周年記念事業の一環として、都市空間を利用した「大分現代美術展'93」や「東京交響楽団特別演奏会」を開催いたしました。

また、毎年、大分市民音楽祭、大分市美術展等、定期的で開催し、自主的な芸術文化活動の推進にも努めておりますが、さらに「豊かな自然を生かした都市づくり」「思いやりと優しさにあふれる都市づくり」「若者にも魅力ある活力ある都市づくり」を基本目標に、「活き粋大分づくり」を進め、魅力ある県都として、また東九州の中核都市としての役割を果たすため、芸術・文化の振興をぜひとも図って参りたいと考えております。

そのためにも、今年4月には教育委員会に文化振興課を新設するとともに市民からなる“文化振興懇話会”を発足させ、個性豊かな芸術文化の創造に資することとしたところであります。

近年、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと人々の価値観が大きく変化しており、文化への関心と期待は今後ますます高まりを見せて行くものと考えます。このような時、芸術文化団体、行政、民間が互いに密接な連携を図り、それぞれの立場で活性化して行くことが、大分県全体の文化の振興につながって行くものと確信しております。

皆様方の今後ますますのご活躍を心からご期待いたします。



山川 公丈 (二紀会同人)

第29回大分県芸術祭

第29回 県芸術祭アルバム

開幕公演 「豊の国 新しい風と波」 大分県音楽団体協議会 10月1日 白杵市民会館



中幕公演

◀ 「手をつなごう アジアの国と豊の国」



▲ 文化庁芸術祭大分公演

「アジア・太平洋うたとおどりの祭典」

中国・ツバルの民俗芸能 9月21日 大分文化会館

第9回 園田高弘賞ピアノコンクール本選



喜びの入賞者との記念写真

11月27日 大分県芸術会館

閉幕公演 杵築歌舞伎「蛍雪酔屋の坂」 ▶

11月30日 大分県芸術会館



第29回大分県芸術祭賞等受賞者一覧

大分県音楽団体協議会など7団体、5個人に

賞	候補者(団体)名	推薦理由	賞	候補者(団体)名	推薦理由
芸術祭賞	大分県音楽団体協議会 代表/丹羽 登 住所/ []	県内の吹奏楽、合唱、マンドリン、軽音楽などアマチュア音楽の4連盟が、相互研鑽と協調の新しい音楽活動を目指して、3年前に結成した協議会が、「豊の国 新しい風と波」と題して総合の音楽発表活動を行い、第29回大分県芸術祭開幕公園を成功させた功績は大である。 また、きたる第10回国民文化祭大分大会を目指しての積極的な活動は大いに評価されるものである。	奨励賞	清末 典子 団体/大分県民演劇制作協議会 住所/ [] 職業/ピアノ講師 住所/ []	県芸術祭閉幕行事「杵築歌舞伎～雀雪酢屋の坂～」の主役を演じ、見事にその大役を果たした。同作品は県民演劇20周年記念としての大作でもあり、前進座俳優松浦豊和氏の客演を招いたが、その松浦氏をはじめ、劇団のベテラン陣すべてを相手に、劇中劇「曾根崎心中、心中道行の場」を頂点として、華麗かつ重厚に演じきった演技力は見事であった。入団以来14年1度も舞台を欠かした事なく、台本の執筆、主演女優、経営実務と県民演劇を支える力として活躍し、大分県の演劇界発展のけん引力になっており、その功績は受賞にふさわしいものである。
	大分県民踊連盟 代表/伊坂 香里 住所/ []	大分県の民踊団体の活動として、今回は中藝行事に意欲的に取り組み、日本国内だけでなく近隣諸外国にまで題材を求め、「手をつなぐアジアの国と豊の国」の公演を行った。今までにない踊りのパターンをつくりあげ観客に感銘を与えた。新しい手法の導入や意欲的な活動は高く評価を受けるものである。	新人賞	江藤 久美 団体/大分県美術協会(日本画部会) 住所/ [] 職業/家事手伝い 住所/ []	日本画の技術が非常にしっかりしており、的確な表現で安定した落ち着いた作品は見る人に安らぎを与える。装飾的でありながら繊細で女性らしい静かな情緒的な作品は高く評価されており、県美展会場を盛り上げてくれた。県美展では昨年2席、本年1席最高賞を受賞しており、2年連続しての高位受賞は珍しい。今後活躍が大いに期待される人物であり、新人賞を受賞するにふさわしい実績の持ち主と考え推薦します。
	大分県民演劇制作協議会 代表/中沢とおる 住所/ []	「杵築歌舞伎～雀雪酢屋の坂～」の題でアマチュア劇団員と前進座のプロ劇団員との共演で非常にレベルの高い演劇を県民に提供した。内容的にも劇中劇に歌舞伎を導入する等、各所に工夫の跡が見られ、地方のアマチュア劇団としては高い評価を受けており、大分県の演劇活動のリーダーとして大きく貢献してきており、その功績は大である。	特別感状	松浦 豊和 団体/前進座 住所/武蔵野市吉野町1-13-2 職業/前進座俳優 住所/ []	大分県民演劇制作協議会結成20周年の記念大作の公演に当たり、前進座の指導を受けることになり、劇団首脳陣の絶大な支持のもと派遣され客演を演じ、歌舞伎場面の全面的指導を行った。その技群の力量により、作品全体が引き締まり、大成功を収めることが出来た。また、指導を受けた団員は大きな刺激を受け、県民演劇の今後に計り知れない影響を与えた。前進座の次世代を担うホープとして、県民の期待に応え見事な客演を演じ、また、劇中劇の歌舞伎の指導に心血を注ぐなど、特別感謝状を贈呈するにふさわしい人物である。
功労賞	山元 正名 団体/人形劇サークルともしび 住所/ [] 職業/小学校教諭 住所/ []	温厚篤実、昭和37年より現在に至るまで児童文化(主として人形劇)に対する熱意が高く、数多くの大会に参加し公演活動を行っている。県芸術文化振興会議主催の学校巡回公演に毎年参加、好評を得ている。本人所属のサークルや役職名は、(1)人形劇サークル「ともしび」会長(2)大分県人形劇サークル協議会事務局長(3)九州人形劇サークル協議会副会長(4)大分県児童文化研究会事務局長などでその功績は大である。	特別感状	白杵市実行委員会 代表/芝崎 敏夫 住所/白杵市大字白杵72-1	県芸術祭開幕公演「豊の国 新しい風と波」の開催にあたり、地元実行委員会として、主催団体である大分県音楽団体協議会とともに大きな役割を果たし、成功させた功績は誠に大なるものである。
	田島 スマ 団体/竹田しらゆり短歌会 住所/ [] 職業/無職 住所/ []	竹田地域における文化活動のリーダーとして長年貢献的な努力を継続してきた。昭和49年竹田、豊肥地域文学愛好者に呼びかけ「しらゆり短歌会」を結成するとともに、大分県芸術祭に協賛し毎年短歌会を開催し、また県短歌コンクールに多数を応募・参加させ県大会の発展向上に貢献した。昭和48年には、荒廃し倒壊寸前の竹田市の文化財「円通閣」の修復の為募金活動をして見事「円通閣」をよみがえらせた。今年病気を得て入院したことにより一時的に活動を休止した、よってこの機に本人の地域文化へのご尽力をたたえ、推薦したい。		大分県番傘川柳連合会 代表/佐藤真砂延 住所/ []	10月17日に行われた西瀬戸川柳交流大会において、西瀬戸7県の川柳愛好者約200名を大分県に迎え、事前準備から当日の運営にいたるまで、献身的に協力し大会を成功に導いた。また、協会としても投句を積極的呼びかけ、会員による多数の事前投句と当日の参加があり、他県の川柳愛好者とも交流を深め、大分県の川柳水準の向上と他県との有効に大きく貢献した。その団体としての功績は誠に大なるものがある。
功労賞	山香町文化連盟 代表/野川 民安 住所/速見郡山香町大字野原1670番地	山香町文化連盟は30年もの長きにわたり、毎年大分県芸術祭に参加し県芸術祭の振興に大きく貢献しており、また名実ともに「風と文化の薫る町」として県内において高い評価を受けてきた。地域文化の先進地として県内の他の文化協会の手本となり、そのリーダーシップを遺憾なく発揮し、地域文化の発展に大きく貢献した実績は高く評価を受けており、その業績は誠に大なるものがある。その功績をたたえ推薦したい。	大分県吟剣詩舞道総連盟 代表/福永 龍雲 住所/ []	特別参加行事の一つとして10月24日に行われた、西瀬戸吟剣詩舞道交流大会は出場者936名の大規模なものであったが、万全の協力態勢で大会運営を担当し、他県の出場者にも大変手順のよい大会であると好評であった。企画・運営と全般にわたり大会運営に協力しその果たした役割は大なるものであり、また他県との交流を深めることにより大分県の文化レベルの向上につくしており、その功績は誠に大なるものがある。	

第29回大分県芸術祭に参加して

大分県歌人クラブ



大分県歌人クラブ
事務局長 日野正美

今年は、文化庁芸術祭をうけて質の高い芸術にふれることができた。とりわけ「パーティ」と床板を打つだけのツバルの絶妙なハーモニー荘重な「白鳥伝説」は、私には異領域の芸術にふれる感激をいただいた。

短歌会場は、4人の90才代の方が充実した作品を寄せるなど熱心な参加者で溢れた。当部門は、年々高齢者の応募が増加し、生涯学習としての作歌活動が着実にすすんでいる。今後の課題は、若年層に向けた短歌への誘いである。

大分県美術協会



大分県美術協会
事務局長 小川善規

第29回県美展はポルトガル友交450周年記念展のため、3週間遅れの10月19日から書道展をかわきりに写真、日洋彫工展の順に開催された。各部展とも例年を越える出品点数の応募があり、年々盛会になってきていることは喜ばしい傾向にあると言える。

洋画部門は作品を3段掛けにして出来るだけ作品を数多くと、配慮しているものの、入選数も厳選せざるを得ない現状の中、例年のことながら会場の狭さを痛感する。

今年度より小中学生の入場料を無料とし、広く芸術にふれる機会を呼びかけたものの宣伝不足か、その成果が出なかったのは残念である。来年は30周年記念展、今からその企画の検討に入っている。

山香町文化連盟



山香町文化連盟
理事長 野川民安

山香町文化連盟が県芸振会議に加入したのは昭和46年である。それまでは旧正に実施していた総合文化祭を、県芸術祭期間中に更め実施している。本年も第29回県芸術祭に参加し、11月12日～14日の3日間1000名の会員総参加に加え、小中学生、一般参加者もふくめ、作品展示、芸能発表の総合文化祭である。

11月12日には、県芸振仲町会長様、県末広文化課長様の御臨席のもと、町連盟発足30周年記念式を開催する。大いなる喜びである。

大分県マンドリン連盟



大分県マンドリン連盟
会長 宮吉寛

本年度の開幕公演は県音楽団体協議会の担当と決まり、マンドリン連盟から「大分マンドリンオーケストラ」「日田三隈高校マンドリンクラブ」、合唱連盟から「大分中央合唱団」が合同で出演することになった。通常、様式の異なる団体の合同演奏は、楽譜、練習日程、チームワーク其他様々な制約を克服して実現するものだが、幸い四月に中央合唱団の定演で合同を経験しており、リハを含めて2度の合同練習で仕上げる事が出来た。県内には多様なジャンルで多くのサークルが活動しているが、欺かる共演は出演者、聴衆双方にとって多大のメリットがあり、団の活性化に寄与するものである事を特記したい。

気を学ぶ



大分県美術協会・新潮流の会
(日本画)

上野 未央

中国絵画の最高水準といわれた宋時代の絵画を学びたいと以前から思っていた。作品の多くは台湾の故宮美術院に収められているが、まず、宋時代の山水画の景勝地である桂林、黄山、蘇州など21日間かけて取材した。

私にとって現地に出かける事は何と言っても「気韻生動」を肌で感じる事で、その為にも5月の梅雨期を選んだ。桂林では車で漓江周辺を隈なく回り、丁度田植えの時期で農耕する人や水牛、そして霧雨けぶる奇峰は山水画そのものであった。

仙境の地、黄山では雨と霧の中を現場迄、毎日3往復し7日目にやっと雲海を見るチャンスに恵まれた。

奇峰の山々、雲、霧、三者が折りなす様な「気韻生動」そのもので、自然はまさに師であると改めて感じさせられた。

興奮醒めやらぬ桂林、黄山の水墨画の世界から最終地上海で恩師加山又造先生の水墨画を中心とした個展のオープニングに出席し、日本でそれとは又違った趣で美しかった。そして賀川光夫先生の御紹介で復旦大学を訪れ美術教育などについて意見交換するなど、幅広い研修が出来たのではと思っている。

年末には台湾の故宮美術院で多くの作品に触れ表現方法、技術等を学び研修の成果をまとめたいと思う。

最後に素晴らしいチャンスを与えて下さいました多くの先生方や関係者の方々に心より感謝申し上げ厚くお礼を申し上げます。

オーストラリアバレエスクールの研修を終えて



大分県洋舞踊協会

湯原 恭子

まだ暑い日本を發ちメルボルンへ着いたのは9月6日夜おそくでした。春に向っているとはいえ肌寒さを感じる初日でした。

翌朝より国立のオーストラリアバレエスクールにて、研修開始9時から10時30分まで1時間目は全学年クラシックのレッスンは各スタジオが始まります。2時間目は、パ・ド・ドウ キャラクター コンテンポラリーと、各学年によって授業内容が変わります。

クラスルームでは、ダンスヒストリー メーカー キャップ ミュージックと、午前中2時間午後2時間ないし3時間と研修することが出来ました。

毎朝宿舎より学生の気分にもどった様に、ワクワクしながら、スクールへ出かけ研修することが出来ましたことは大きな収穫でした。

フェスティバルの期間中でもあったため、野外で色々なパフォーマンスが見られたのも幸いでした。

舞台も数多く鑑賞出来肌で感じる事が出来、感激しております。

日本には国立のバレエスクールはありませんが、機会があれば交流の場を持ちたいと思っています。

最後になりましたが、素晴らしいチャンスを与えて下さいました関係者の皆様方に、心から感謝申し上げ厚くお礼申し上げます。



芸振30周年をふりかえって

芸振理事 宮 瀬 香多士

県芸振会議がスタートして30年を迎えたという。もう、そんなにもなったかーというのが実感だ。そういえば発足前後のことが、遙か昔のことものようにも思えてくる。改めて時の流れというものを感じる。

第1回の会合では、文化活動を盛んにするため各文化団体が横の連絡を密にすることの必要性を確認するとともに、翌昭和40年度から県芸術祭を開くことを決めた。この日の会合は「第1回大分県芸術文化振興会議」として開かれたが、このときは仮称で、まだ会の名が正式に決まっていなかった。

会の名前を決めるときの話し合いでは、会議体としての性格を持たせるために、協議会などといった名称をつけず「大分県芸術文化振興会議」としたのを覚えている。

その後、役員選考・規約起草委員が決まり、元の県立大分図書館の館長室で米田貞一氏らと正副会長の候補選考で何回か話し合った。昭和40年の5月ごろだったと思う。

第1回の県芸術祭は昭和40年10月に別府で開幕式が催された。開幕行事のメインには「森の歌」が決まったが、練習期間が短いこともあって全曲演奏ができるかどうか心配する向きもあった。しかし抜粋曲でなく、全局演奏に踏み切ったことは非常によかったと思う。いまでも開幕式の日の感動を思い起こすことができる。

たしか初練習の夜だったと思うが、練習会場の大分市荷揚町小学校の一室に関係者が集まり、流れてくる練習の歌声を耳にしながら全曲演奏か抜粋曲かで論議し、全曲演奏に決めたことを覚えている。

30年を迎えた県芸振会議も、始めのうちは県芸術祭を軌道に乗せるのに力をそがれ、独自の活動に取りかかる余裕はなかったといっていだらう。機関誌『芸振』や『大分県文化年鑑』の発刊に取りかかったのは6～7年たってからだった。

県芸振会議発足のころ、会の活動について話し合ったことがあるが、そのとき「大分県の文化を考えるシンポジウムや講演会なども開いてはどうだろう」という意見も出ていた。もちろん講師は会員である。県芸振会議が、さらに飛躍・発展するためにも、再びこんな活動について論議してみるのもよいのではなかろうか。

平成10年度の国民文化祭に向けて



国民文化祭に向けて

大分県県民オペラ協会

会長 小長 久子

国民文化祭に大分県民オペラが参加したのは平成元年の埼玉県と平成2年の愛媛県であった。

埼玉県は春日部市民文化会館で11月5日午後2時から始まり、第1部に尚美学園アートシアター制作の「さきかけ地蔵」の小品が上演されたあとオペラ「カルメン」を各県の参加団体が手分けをして青少年のオーケストラで上演した。オーケストラの各パートには東京からのプロの奏者を配した。合唱に地元の合唱団を動員、埼玉県オペラ協会が計画を立て、茨城、群馬、東京、富山、大分、鹿児島県が参加、大分からは梅津百合子、岩崎洋子、恵藤美紀の3人が「カルメン」第3幕「カルタの三重唱」の場を受持ち歌った。セリフをふんだんに入れ、見ごたえのある舞台だった。ホールは大ホール1500席、小ホール400席、地下に2室のリハーサル室と楽屋が大・小それぞれにあり、19万7千人の町に、このような立派なホールのあることをはじめて知った。

愛媛県では今治市公会堂で平成2年10月20日「世界の名曲を歌おう」と題してゲストに斉藤昌子、今治出身の今井久仁恵を迎えてコンサートが開かれ、大分から野村高子、吉原恵子が参加、それぞれオペラの詠唱を歌った。愛媛をはじめ香川、大分、岡山、広島、大阪、福井、鳥取、東京、群馬、埼玉、宮城、岩手と多くの団体が参加し、長時間にわたるコンサートだった。

今治市は人口13万、公会堂は古く1200席、控室は臨時にプレハブを庭に作り足して使った。

大分からの往きは通勤で松山に飛んだので松山市のメインホールをまずみた。翌日開会式典の準備中で、2000席の大ホール、1000席の小ホールなど噂にきく素晴らしいものであった。

平成10年、いよいよ大分に念願の国民文化祭を迎えることが決まった。これを成功させるための急務であるホールが一日も早く県病跡地に建てられんことを祈っている。そしてどこにも負けない発想で個性のある国民文化祭を文化人の手で創り上げたいものと思う。



地方文化の洗練の場に

別府大学文学部

教授 佐々木均太郎

国民文化祭が地方文化に光沢をかける^{るつぼ}壇場になることを期待したい。田植の猿楽が幽玄な能に、くぐつ舞が優雅な文楽に、おくに踊りが華麗な歌舞伎に磨きあげられたように。鄙美^{びんび}の文化は、他地域文化との交流の壇場^{みやび}の中で雅美文化へと醸成されていった。

先般、大分文化会館で行われた文化庁芸術祭記念公演の「白鳥伝説」や「王の挽歌」の優美で格調高い演技には感嘆させられた。豊後伝説の白鳥を踊った林千枝さんの透徹した舞いは絶妙であった。まさに洗練された雅美の極致というほかない。しかも、林さんは、竹田市出身の作家三角寛氏のお孫さん。源流は鄙美の文化系累にある因縁の深さに再度驚かされた。

本県にはまだ掘り起こしたい芸能文化が各地に埋もれている。開催までに、それらなるべく多く舞台にたたせ、他地域文化との交流を通して、より磨きのかかったものにしたいものである。そのためにも、整備された県民ホールをはじめその他の施設の充実が急務であることはいうまでもない。



事務局だより

平成5年度 会員の受彰(賞)者紹介

★平成5年度文化の日知事表彰(文化功労者)

仲 町 謙 吉

(大分県芸術文化振興会議会長・県美協会員)

★平成5年度大分合同新聞文化賞(芸術文化)

倉 田 紘 文

(大分県芸術文化振興会議常任理事
俳誌「蔭」発行所主宰)

芸振補助事業で開催される行事

平成6年1月～3月

行事名	開催月日	会場
平成5年度 大分県吹奏楽アンサンブルコンテスト	1月9日	県立芸術会館
第11回大分市 少年少女定期演奏会	1月16日	〃
大分ジュニア コーラス定期演奏会	1月16日	コンパルホール
おおいた現代彫刻展	2月8日 ～13日	未定
平成5年度 大分合唱講習会	2月20日	未定
二科会 写真デザイン公募展	3月中	県立芸術会館
第15回 九州国画写真展	3月21日 ～27日	〃
大分の文化を考える パネルディスカッション	3月上旬	未定

芸振30周年記念事業を設定

大分県芸術文化振興会議は、昭和39年12月26日に発足しましてから、本年は30年という長い年月を経ました。

30年を記念し次のような記念事業を計画し、今後の活動の指針にしたいと考えています。会員各位の絶大なる御協力をお願い申し上げます。

1. 座談会

大分合同新聞社の御協力により12月9日座談会を開催します。

2. 教育テレビ対談

大分県教育委員会のはからいで、教育長・芸振会長のテレビ対談(OBS大分放送)を開催します。

日時/平成6年1月2日(日)

10時30分～11時放映

3. 「文化を語る夕べ」盛大に開催

この集いは、第8回目になります。例年のように盛大に開催いたします。芸振30周年記念を迎え、会員皆様の交流・親睦の場として意義のある集いにしたいと考えています。

とき 12月18日(土) 17時～20時

ところ 大分県市町村会館大ホール

93年版「大分県文化年鑑」の編集開始

編集委員・執筆委員の先生方には、大変なご尽力を頂いているところですが、本年度第1回の編集委員会で、編集方針・編集スケジュール等が決定しました。編集委員の先生方は、各ジャンル(執筆委員)の執筆をとりまとめ、1月

末迄に事務局に提出することになっています。また会員の方で資料提出等の依頼があった場合は、よろしくご協力くださるようお願いいたします。

なお編集委員・執筆委員の先生方は下記名簿のとおりですので、よろしくお願いいたします。

★「文化年鑑」編集委員及び執筆委員名簿

ジャンル	氏名	ジャンル	氏名	ジャンル	氏名	ジャンル	氏名	
文芸	まとめ・小説	佐々木均太郎	美術	彫刻	合田 習一	音楽	合唱	中川 国生
	現代詩	首藤 三郎		工芸	佐藤 武郎		オペラ	小長 久子
	短歌	日野 正美		書道	古庄 碧旻		軽音楽	中野 幸和
	俳句	工藤 芳久		写真	三重野 元		邦楽	後藤 碩山
	〃	足立 雅泉		宣伝美術	波多野義孝		民謡	池田 萬龍
	川柳	佐藤真砂延		音楽	まとめ		山本 勝彦	吟詠
美術	俚謡	土屋 北彦	声楽	土谷 正公	舞踊	まとめ・洋舞	佐藤 朱音	
	洋画	十時 良	器楽	辛島 光義		日舞	花柳裕久英	
	まとめ	菅 久	吹奏楽	斎藤 哲哉		民踊	伊坂 香里	
	日本画	鈴木 忠実	作曲	野崎 哲		演劇	まとめ	中沢とおる
						演劇	自立演劇	小袋 丹
							高校演劇	佐藤 邦明
							児童演劇	首藤 悦爾
						能楽	緒方 基秀	
						生活文化	藤原 嘉久	
						文化財	秋吉 心良	
						表紙	首藤 詔子	
						カット	大蔵 開平	